

---

# Be Yourself

---

令和元年1月20日(月)

主任連絡No. 63

第3学年主任 柴田

## <海洋教育「長良川へ行こう」の見通し>

\* 詳細は、放課後配布します。

14:00 5時間目終了

14:10 生徒玄関前集合 ⇒ 学校出発

14:40 現地（安全面等を考えて班で行動）  
（活動40分）

15:20 点呼

15:25 出発

15:55 学校到着

16:00 解散

\* ひかりの子は、15:40に間に合うように、  
帰りは車で（ひかりの子4名＋鈴木先生、柴田）

## 《今日伝えておくとよいこと》

- ・ 防寒具をもってくる。
- ・ 次回は、5時間目から（たき火も次回）
- ・ 今回は、観察、ゴミ拾い、絵を描くなど  
できることを自分で想定して、持ち物をもってくる。
- ・ 下校時間は、15:40⇒16:00に変更

# 海洋教育資料

第2学年

# 海洋教育について⑧

## □ 海洋教育について・・・第2期の主任提案に載せた内容です。

以下のような流れでつないでいきます。

琵琶湖について学習する、琵琶湖の環境が悪化し汚れているということを知る。そして、岐阜に戻ってきた後、琵琶湖と同じように考えた時私たちの近辺にこういった場所はないだろうかということで、長良川に目を向けさせる。そして、河川環境を調べるためにカワゲラウォッチングを実施する。(歴史博物館の方?)そして、長良川が美しいということを知る。その美しい環境が保たれている要因として、この川は上流から流れてきている。つまり、上流の方が尽力し環境保全に努めてみえる。そこで、鮎パーク(郡上)へ行って尽力されている方の話を聞く。大きな声では言えないがそこでついでに遊ぶ。岐阜に戻った後、こういった視点で考えさせる。私たちの岐阜市からみれば郡上は上流である。また、私たちから見れば下流に住む人からは岐阜市が上流となる。よって、郡上の人と同じように私たちが下流の住む人のためにできることはないだろうか。と、意識を下流下流へと送る。そうすると、河口へ行き海へとつながり、2年生の出口が3年生の修学旅行「海」へとつながっていく。

### ■今後の動きに関わって

#### □ 5月11日(火)・・・総合「琵琶湖がある滋賀と、私たちの地域との共通点は何だろう?(海洋教育)」

琵琶湖についての事前学習で琵琶湖の環境が悪化してきたが、地域の方々が尽力し環境保全に努められ、改善されている。実際に琵琶湖へと足を運んで湖を目にしてきた。では、岐阜に戻ってきた今、琵琶湖と同じように私たちの地域との共通するところは何だろう?近辺にこういった場所はないだろうか?・・・ということ、長良川に目を向けさせる。

↓

長良川の河川の環境って一体どうなっているのだろうか?

↓

身近な長良川と河川環境を調べよう。

その指標になるのは、その川にどんな水生生物が棲んでいるのだろうか?というカワゲラウォッチングを実施してみよう。

↓

#### □ 7月 1日(月)②③④・・・振り返りセットで。現地で簡単な振り返りをしても構わない

河川環境を調べるためにカワゲラウォッチングを実施する。(歴史博物館の方?)

尚子ロード付近 持ち物:筆記用具,水筒,タオル,琵琶湖のカヌーで使用したかかとつきサンダル

雨天なら翌日 7月2日(火)②③④

カワゲラウォッチングを実施

講師の方を待つ時間等,石積みなどをして河原で遊んでください  
せつかくなので。学びもあるが、楽しむ!

→水生昆虫を調べた結果、長良川ってきれい!鮎は美しく苔の多い水でしか棲むことができない。では、どうしてこんなにも長良川はきれいなのだろうか・・・。

今、目の前にある流れる水はどこからきているのだろうか?・・・A:上流から 上流へ意識を方向付ける

↓

つまり、上流からきれいな水が流れてきて目の前を流れている。琵琶湖の西村さんや苗村さんのように下流の環境の保全に向けて尽力されている方がいるのではないだろうか・・・。それも下流の人のことを考えて。

↓

では、上流へ行って環境保全をしていらっしゃる方や川漁師の方に話を聞いてみよう!

□7月17日(水)

鮎パークへ行く!

雨天なら翌日

旅行会社に確認したこと。片道1時間30分 往復3時間

バス代・・・1台7万円 3台で21万円 (ちなみに予算20万、オーバーした分はどこからか補てん)

行程として次の2つのパターンが考えられる。

① 2時間滞在するなら、7時発で12時30分に帰ってくる・・・給食を学校で食べる  
7時発—8時30分着—2時間活動—10時30分発—12時着—給食

② 8時30分出発なら弁当が必要

8時30分発—10時着—2時間活動—12時発—13時30分着—5時間目へ  
というようなかたちになるかな。

現地では、およそ40分間環境保全に尽力されている方や川漁師さんからの話を聞く。

だいたいこんな話・・・

「河川は源流から河口までがすべてつながっているため、上に住んでいる人は、下に住んでいる人の責任を負っている。」「また、鮎は下流から上流に遡ることを考えると、上流の人たちにとっても、下流の河川環境は他人事ではない。」「河川を守るということは川の流域に住む人たち全員で守ることである。」

「長良中学校がある長良川流域は中流域になる。中学生がここ郡上を上流と考えるように、中学生が住んでいるところよりも下流に住んでいる人たちにとっては、あなたたちが住む地域が上流にあたる。」「ここで学んだことを生かして、あなたたち中学生が岐阜市よりも下流に住む人たちのためにできることはないのだろうか?」「そうすることによってもっとたくさんの鮎が遡上することができる。」

↓

下流の地域の人たちのために、私たちができることは何だろう?

・・・夏休み明けの海洋教育へ・・・

鮎パークで余った時間は、郡上の自然を楽しむ。遊ぶ時間や自然に触れる時間にします。



今後に関わって・・・

6月11日（火）総合：半分が海洋教育 半分が進路講演会

前半：海洋教育

ねらい：環境という側面から、琵琶湖が今抱えている問題は何であるかを確認し、その保全に向けてどのような取り組みがなされているのかを確認する（資料や課題別研修でつかんだことをもとに）。そして、琵琶湖と私たちが住む地域において共通する場所や共通する点は何であるかを見出すことを通して、長良川に目を向け、長良川を調べることに目を向けさせる。

※カワゲラウォッチングを出口として伝える。

㊦大きく2点で進めてください

① 「琵琶湖が抱える環境問題や保全に地域の人ほどどのように向き合っているのか」

- ・調べたこと
- ・聞いたこと
- ・実際に自分が目にしたこと（琵琶湖の水を見て）・・・という視点で

補助発問「琵琶湖が近江八幡をはじめとする地域と密接につながっているように、私たちの地域で同じように密接につながっている環境資源（自然環境）は何だろうか？（どこだろうか？）」

② 「長良川について知っていることを出し合おう。」

- ・環境の側面
- ・長良川とその流域に住む地域とのつながり

出口・・・意外に長良川について知らないことが多いことが分かった。現地に足を運んで、長良川の水質について調べてみよう。

後半：進路学習 小島さん・・・小島さんのことについての事前学習ではなく、生き方「めざす自分」について振り返る時間が中心。

ねらい：琵琶湖研修を経た今「めざす自分」について振り返ることを通して、①琵琶湖研修2日目の研修から学んだことを生かし、今取り組むことができている自分なのかをみつめる②こういった「めざす自分」の実現に向けた営みは、将来自分にとってどんな意味があるのだろうか。という2点について「今」と「未来（将来）」について考える。そして、小島さんについて質問したいことを記入する。

㊦大きく2点で進める・・・時間的に厳しい。個に関わることなので個で完結すればよい。つま

きちんと自分と向き合って書ければ○。交流はなくてよい。

- ① 「琵琶湖研修の課題別研修のことを生かして、今『めざす自分』の実現に向けてどのように取り組んでいるか」
  - ② 「今、『めざす自分』の実現に向けて歩んでいることが、将来においてどのように生きるのだろうか」
- ・・・目的意識をもたせるために、今頑張ることが未来の自分への投資になっているという視点をもたせる。

令和元年6月28日

2年生の保護者の皆さま

岐阜市立長良中学校  
校長 長村 覚

海洋教育（長良川研修）における登校時刻変更のお願い

梅雨の候、紫陽花が美しく咲く季節となりました。日頃は本校の教育活動にご理解、ご協力いただき感謝申し上げます。

さて、本校では、総合的な学習の時間において海洋教育を行っています。3年間における第2学年の位置付けとしては、長良川を中心に据えて「河川の環境や山と海とのつながり」について学習をしています。7月2日（火）には長良川でカワゲラウォッチングを行い、7月19日（金）では郡上市白鳥にある「鮎パーク」にて長良川研修を行い、地元を流れる長良川への理解を深める機会にしたいと考えております。

つきましては、「鮎パーク」での長良川研修では、下記の日程で活動を予定しているため、登校時刻がいつもより早まります。急な変更で恐れ入りますが、ご承知おきいただくとともに、ご対応下さいますようお願いいたします。

記

- 1 日 時 令和元年7月19日（金） 7：00～12：20  
2 場 所 鮎パーク  
3 行 程

- ・長良中学校登校完了（6：45）
- ・出発バスで移動（7：00～）
- ・「鮎パーク」での講話や博物館見学の研修（8：30～10：50）
- ・出発バスで移動（10：50～）
- ・長良中学校到着（12：20）

登校時刻が早まりますのでご注意ください。開門時刻は、6：35となります。

※持ち物等、詳細については後日案内させていただきます。

ご不明な点については、担当者までお問い合わせください。

岐阜市立長良中学校	担当	2年生学年主任：伊藤 良貴
連絡先	TEL	058-231-7207
	FAX	058-231-7208
	E-mail	gichu07@nagara-j.gifu-gif.ed.jp

## □海洋教育について・・・行く前にこのことだけは押さえてください。

カワゲラウォッチング→鮎パーク

カワゲラと鮎パークの間をつなぐ話をお願いします。(市の環境課の方が少し話をしてくださいましたが。)

要は、鮎パークで学ぶ目的や意図です。

以下を参考にしてください。

カワゲラウォッチングを実施

→水生昆虫を調べた結果、長良川ってきれい！鮎は美しく苔の多い水でしか棲むことができない。では、どうしてこんなにも長良川はきれいなのだろうか・・・。

今、目の前にある流れる水はどこからきているのだろうか？・・・A:上流から 上流へ意識を方向付ける

↓

つまり、上流からきれいな水が流れてきて目の前を流れている。琵琶湖の西村さんや苗村さんのように下流の環境の保全に向けて尽力されている方がいるのではないだろうか・・・。それも下流の人のことを考えて。

↓

では、上流へ行って環境保全をしていらっしゃる方や川漁師の方に話を聞いてみよう！

さらに、鮎パーク後は、

「河川は源流から河口までがすべてつながっているため、上に住んでいる人は、下に住んでいる人の責任を負っている。」  
「また、鮎は下流から上流に遡ることを考えると、上流の人たちにとっても、下流の河川環境は他人事ではない。」「河川を守るということは川の流域に住む人たち全員で守ることである。」

「長良中学校がある長良川流域は中流域になる。中学生がここ郡上を上流と考えるように、中学生が住んでいるところよりも下流に住んでいる人たちにとっては、あなたたちが住む地域が上流にあたる。」「ここで学んだことを生かして、あなたたち中学生が岐阜市よりも下流に住む人たちのためにできることはないのだろうか？」「そうすることによってもっとたくさんの鮎が遡上することができる。」

↓

下流の地域の人たちのために、私たちができることは何だろうか？

・・・夏休み明けの海洋教育へ・・・

9月30日の海洋教育について

夏休み前

- ・長良川中流域はきれいだ。その秘密は、上流域にある。
- ・あゆパークへ行って話を聞いてみよう。

上流域で河川環境が美しく保たれている

+

川は上流から下流までがつながっている。流域の人すべての人で守られている。

(長良川システム)

以上のことを整理する時間が前半の時間

- ・中流域の私たちから見れば、郡上は上流である
- ・下流から見れば私たちが住む中流域は上流にあたる

下流に住む人たちのために私たちができることはないだろうか？

掃除等・・・

ありきたりなことが出てくると思う。

滋賀県ではどうしていたのだろうか・・・。

河川環境を守るために長良川で取り組まれていることは・・・。という調べ学習に入る。

以下は、まだ話さないでください。

今後の展開として・・・

川漁師や長良川環境レンジャーの方から話を聞く。

予算がつけば、川に行ってお漁師の船に乗ったり、鮎を食べたりしたいと思います。

<おおまかな流れとして>

① これまでの学習をまとめる。

カワゲラウォッチングや鮎パークで学んだこと・・・書いて個人レベルでまとめてから発表  
など丁寧に思考をつなげるとよいです。

② 中流域は下流域でから見ると上流にあたり、下流の人のためにできることは何か。

③ いろいろ意見を交流してみるが、分からないので琵琶湖で行われていることは何か。

長良川で行われていることは何か。調べてみよう→調べ学習の時間へつなぐ。

OR

ダイナミックな代案としてあゆパークでもらったパンフレットをまとめる時間としてもよい。

あゆパークでもらったパンフレットをまとめる時間をとるとよい。印刷と配布は土屋先生。

23.5.18  
あゆパーク  
さくら  
案1  
案2





これまでに学習したことを整理してまとめよう。

・カワゲラウォッチングやあゆパークで学んだことをまとめよう。

・今後私たちができそうなことは何だろう。

2019年度長良中学校

# 高みをめざす



～踏み出し続けた一步の先に～

2019.11.2 伊藤 良貴

## ○海洋教育について

現在:下流の人のためにできることを考えてきた。

### 今後の展開

下流の人のためにできることを考える第一歩として、地域の長良川の現状を知ることが大切である。目で見えて分かることと、教えてもらって知ることがある。その情報も、インターネットや書籍ではなく、直接見る、川をよく知る人の話を直接聞くといった生きた情報を五感で感じて得ることが大切である。

よって、1月に以下のような活動を行います。

時期:1月中旬

場所:鶺鴒ミュージアム周辺(&n)

人数:ひと学級ずつ

活動内容:平工さんや川に関わる方の話を聞く、船に乗る鮎串うち体験と塩焼き

学級によって、ばらつきがあるので近日中にどこかで調整し、「生きる」、「海洋」、「テーマ追究」を割り振ります。

9月30日 11月25日（月）の海洋教育について・・・できますか？

夏休み前

- ・長良川中流域はきれいだ。その秘密は、上流域にある。
- ・あゆパークへ行って話を聞いてみよう。

上流域で河川環境が美しく保たれている

+

川は上流から下流までがつながっている。流域の人すべての人で守られている。

(長良川システム)

以上のことを整理する時間が前半の時間

- ・中流域の私たちから見れば、郡上は上流である
- ・下流から見れば私たちが住む中流域は上流にあたる

下流に住む人たちのために私たちができることはないだろうか？

掃除等・・・

ありきたりなことが出てくると思う。

滋賀県ではどうしていたのだろうか・・・。

河川環境を守るために長良川で取り組まれていることは・・・という調べ学習に入る。

以下は、まだ話さないでください。

今後の展開として・・・

川漁師や長良川環境レンジャーの方から話を聞く。

予算がつけば、川に行ってお漁師の船に乗ったり、鮎を食べたりしたいと思います。

<おおまかな流れとして>

① これまでの学習をまとめる。

あゆパークでもらったパンフレットをまとめる時間をとるとよい。印刷と配布は土屋先生。

カワゲラウォッチングや鮎パークで学んだこと・・・書いて個人レベルでまとめてから発表など丁寧に思考をつなげるとよいです。

② 中流域は下流域でから見ると上流にあたり、下流の人のためにできることは何か。

③ いろいろ意見を交流してみるが、分からないので琵琶湖で行われていることは何か。

長良川で行われていることは何か。調べてみよう→調べ学習の時間へつなぐ。

OR

ダイナミックな代案としてあゆパークでもらったパンフレットをまとめる時間としてもよい。

今回はここをやりました。

2019年度長良中学校

# 高みをめざす

～踏み出し続けた一步の先に～



2019.12.18 伊藤 良貴

## <今後の海洋教育>

3年生にかけて海（修学旅行）へとつないでいく、1月から3月にかけて、海洋教育のクライマックスを迎える。ただ、現実問題として学校内でできることは限られており、現在「下流の人のために」という考え方や筋道としてよいのであるが、何となく実感が伴わず形だけで終わるような可能性がある。よって、以下のようなつながりによって海へと向かうようにする。

それは、

「鮎」という視点から（側面から）見て、海へとつないでいく。

ここまでの海洋教育では長良川システムを学び、下流の人のためにできることを考え、「掃除」ということが多く挙げた。現実的に下流に住む人のためにできそうなことは、はっきり言ってこのくらいかもしれない。しかし、掃除をすることで、具体的に直接的に環境や下流に住む人に何のプラスの影響を与えるのだろうかと思いをめぐらすような話になってしまう。つまり、分かるようで分からない。その分からないということが、すでに動機づけになっていないということである。

それを、『鮎の生態』を追うことで、海や河口と下流～中流の川のつながりをつかむことができるようにする。

鮎は、年魚と言って一年で生涯を終える。そして、以下のような一生を送る

(秋) 小さな卵から生まれた幼魚は、川の流れに乗って海に下る。

(冬) 海岸近くの浅い場所で過ごす。

(春から夏) 川をのぼり始める。群れを成して川を遡上し、川の中流域に住み着く。川底の苔を主食にする。

(秋) 再び川を下り、下流付近までやって来て、卵を産みつける。産卵に全エネルギーを使った鮎は「年魚」の名の通り、一年で生涯を閉じる。

つまり、(秋) 幼魚は、きれいな海や河口でなければ小さいうちに死んでしまう。

(冬) きれいな海でなければ、海岸で過ごすことができない。

(春から夏) 私たちの下流から中流域において、苔がたくさん生えるようなきれいな川でなければ遡上することができない。

(秋) 上流からきれいな水が流れなければ下流で卵を産みつけることはできない。

ただ、言い換えただけのことかもしれないが……。でも、ほとんどの子どもはこのことを知らない。

以上のことから、アユは一か所に留まることなく海、河口から、中流に向かって移動をし、再び下流へと向かうこと。美しい川でしか棲むことができず、苔によってその味が決まる。岐阜市は、絶滅が危惧されている生物としてレッドリストに「アユ（天然遡上）」を選定した。「岐阜のアユ『長良川のアユ』」は、清流長良川のシンボルで環境の良好な河川の証明でもあり、地元住民のおらが町のアユが日本一であるという心意気が基本である。

そして、アユは岐阜県の名産であり、岐阜県の産業や経済をも支えているという方向にも目を向けさせたい。つまり、長良川システムを支える一員として、長良川を美しくすることは、周り回って私たちのためになっている。

上のことを学校での調べ学習による予備知識及び、2月に川漁師の平工さんの話や船に乗る、実際にアユを触り、串打ちを行い、口にすることでそのアユについて五感を使い、感覚的に知ることによって長良川の保全に向けて動き始める動機づけを行うようにする。

出口として、アユが最期に向かっていく海とはどんなところだろうか、同時に、海洋教育3年生へとつないでいくために、遡上してから、海へと帰っていく動きについて知るようにしたい。

↓

**2月になりました。**

**時期:2月17日(月)2-1 総合**

**2月26日(水)2-2 総合**

**2月28日(金)2-3 創造**

**場所:鶺鴒ミュージアム周辺(&n)**

**人数:ひと学級ずつ**

**活動内容:平工さんや川に関わる方の話を聞く、船に乗る鮎串うち体験と塩焼き**

**鮎, ¥200×117=23400円…担任は, ¥200を持参してください。**

**天然。養殖でだいたい, 塩焼き600円程度。よって, 天然1000円位だと思えます。**

2019年度長良中学校

1週間お疲れ様でした！ゆっくり休んでください。

# 高みをめざす



2019.1.10 伊藤 良貴

～踏み出し続けた一步の先に～

日時:2月17日(月)2-1 14:30~16:30

2月26日(水)2-2 14:30~16:30

2月28日(金)2-3 14:30~16:30

どこかで、鮎を食べることを事前に伝えてください。アレルギーはないはずですが。

## <当日の流れ>

14:15	5時間目終了	<b>&lt;場所、備考&gt;</b> …ST, 帰る準備は、昼休みに！  晴れ:塩焼きは、長良川河原 雨 :塩焼きは、&n or 鶺鴒ミュージアム(別棟)
14:25	学校出発…徒歩25分…	
14:50	鶺鴒ミュージアム(別棟)着 平工さんのお話(5分)	乗船しないグループは、引率のもと &nの1Fフロアの水槽や施設の見学 ←事前に5人グループを決めて下さい 雨:体験プログラムを計画中 (仕掛けづくり等)
14:55	串うち体験, 塩焼き(5分)	
15:00すぎ	漁船乗船 5分×8回転=計40分 乗船5人	←焼きあがったら、乗船を待つ間に食べ始めるかも。最終乗船グループは、鮎を食べながら平工さんの話を聞くかも。
15:40	鮎の塩焼きを食べる	
15:45	平工さんのお話(15分)	※ちなみに、6月進路講演会で話をしてくださった小島さんが言っていた施設が&nです。どこかで伝えて。
16:00	鶺鴒ミュージアム出発	
16:25	学校着 即下校 ST等をする時間はありません	

持ち物：寒いので防寒具（ベンチコート，コート，昨年マラソン大会のように）

お茶・・・鮎を食べて少しパサつくので・・・。あたたかいのを入れるとよい。かなり時間が経って冷めるかもしれませんが。

担任の先生は、鮎代¥200を持参してください。

## <連絡>

平工さんから学ぶという方向付けが必要である。

### <前回の海洋>

下流の人のためにできること→

※今後の学習へつなぐために、

### <今後の展開>

→鮎の事前学習→平工さんから学ぶ

の部分の授業が必要になってきます。

また、それについては、職業体験学習後に伊藤から提案します。

- ・総合担当・・・土屋先生、海洋教育において総合の時間がどれだけ確保できるかカウントをお願いします。



2019年度長良中学校

# 高みをめざす

～踏み出し続けた一步の先に～



2020.1.27 伊藤 良貴

## 海洋教育の校外学習に向けて、事前学習2時間の使い方

海洋教育で校外学習に行くまでに、どの学級でも2時間総合の時間があります。その2時間の中で、「鮎」について事前学習を行わなければなりません。これまでの海洋教育では、「下流域に住む人のためにできることは何か？」ということを行って「掃除等」が出てきました。そこから、少し舵をとり『鮎』の生態を中心とした方向付けを行わなければなりません。・・・詳細を以前書いたので省く・・・

よい意味で前の話し合いから時間が経っているので、何となく記憶に残る前の学習を受けてこちらから提案していくという形でも自然なような気がします。

1 / 2時間目

<導入>前の学習を受けて↓

以前、学級でどんなことが話し合われているかわからないのでここは自分で補ってください。

鮎の写真や、鵜飼いの様子、川漁師の平工さんを見せる。・・・都内の高級料亭で長良川産の天然鮎の塩焼き一匹いくらくらいだと思ふなど問いかけてやるとよいかもかもしれません。

ちなみにテレビ番組ぐるナイで見た長良川産の天然アユの塩焼き一匹5800円（都内）でした。あと、長良川のアユは皇室にも献上されています。

そんな鮎ですが・・・

郡上鮎は、平成19年に河川魚として唯一地域団体登録として特許庁に認定され、第11回清流めぐり利き鮎会ではグランプリを受賞、名実ともに日本一となった。しかしそんな鮎が、岐阜市が策定した「レッドリスト」で長良川の「アユ（天然）」を準絶滅危惧と選定。つまり日本一にもなった私たちの地元の宝である天然の遡上鮎がピンチである。



【岐阜市】情報定期便「ぎふじん：平工顕太郎さん 伝統を受け継ぎ、磨く、繋ぐ／ぎふNOW!：おもてなしを学ぼう！」

る機会をもつことができるようになった。中身を話して期待感ももたせるとよいです。

↓

まず、自分たちでパソコン室や彩間でタブレットを使いながら鮎の生態を調べ、まとめよ

↓  
知っているようで知らない地元の鮎。こういった導入から、「河川環境が鮎に与える影響について調べたり考えたりしてみよう」と方向付け、とまず、左の動画を見てみるとよいです。（まず一度ご自分でも見てください。）

↓  
ここに出てきた、川漁師の平工さんから直接お話を聞いたり、体験をさせていただいたりする

う。調べるということは、どれだけ文字としてメモに残すことができるかが勝負。あくまで、個人の学習で、一人で調べるのが大切です。  
とにかく鮎について知ってください。

## 2 / 2 時間目

調べ学習の続きをする (30分)



校外学習の流れを説明する (20分)

持ち物、グループ分け、体験活動の順番など確認次、空き時間→授業の開始を2年フロアで見届ける

# 校外学習実施届

令和 2 年 2 月 17 日  
26 日  
28

長良中学校長 様

受理印	校 長	教 頭	教 務

職 名 教 諭  
 指導者 伊藤 良貴 印  
 植田 貴洋 印  
 藏本 尚香 印  
 鈴木 啓太 印  
 土屋 桃子 印

下記のとおり校外学習を実施しますからお届けします。

1	実施期日	1 組 令和 2 年 2 月 1 7 日 (月) 2 組 2 月 2 6 日 (水) 3 組 2 月 2 8 日 (金)	} 1 4 時 3 0 分 ~ 1 6 時 3 0 分			
2	実施学年	第 2 学 年	生徒数	男 6 4 名	女 5 3 名	計 1 1 7 名
3	学習目的	「鮎の生態を知る」ことを通して、川の下流域と中流域とのつながりや長良川における河川環境について学ぶ				
4	学習内容	総合的な学習の時間「海洋教育」のゲストティーチャーとして川漁師の平工さんをお招きする。「鮎の生態を追う」ということをテーマに、川の中流域～下流域（河口や海）のつながりについて講話をしていただき、子ども達は川と海の間について理解を深める。また、地元の観光資源に親しむ目的で鮎の串うちや塩焼き体験、漁船に乗船し長良川の環境調査を行う。				
5	場 所 コ ー ス 経 路 学習箇所 を記入	長良中学校→鶴飼ミュージアム→長良中学校（活動時間等の詳細は別紙）				
6	事前調査 事 項	危険物又は危険箇所	横断歩道，交差点			
		経路の確認	済			
		生徒への事前指導	総合的な学習の時間や当日の朝活動で行う			
		緊急連絡の措置	学校（管理職へ報告）			
		交通機関利用・費用	不要			
7	その他	特になし				



社

南郷1西

コープぎふ

福光南町南

南郷2

南郷1

道三町

長良中

福光緑地

平和通

んぽ生命保険  
岐阜サービスセンター

南郷2南

北署

長良川球技メドウ

松風町

長良川  
スポーツ  
プラザ

横断注意

横断注意

天神人祖一神宮

メモリアルセンター北

崇福寺

岐阜メモリアルセンター  
相撲場

ふれ愛ドーム

モアグレース  
長良福光

長良川国際会議場北

NTT  
インフラネット

メモリアルセンター  
で愛ドーム

長良福光

長良川競技場

学園町3

岐阜メモリアル  
レクセンター

岐阜都ホテル

長良川球場

オハナビル



別紙

## 「森・川・海」の繋がりから学ぶ環境学習推進事業に係る講座計画

### <講師>

氏名（ふりがな） ひらく けんたろう 平工 顕太郎 （長良川漁業協同組合 総代、結の船 代表）
---

### <講座について>

講座対象	長良中学校 2年生3学級
日時	1組 令和2年2月17日（月） 2組 2月26日（水） 3組 2月28日（金） } 14時30分～16時30分
講座内容	総合的な学習の時間「海洋教育」のゲストティーチャーとして川漁師の平工さんをお招きする。「鮎の生態を追う」ということをテーマに、川の中流域～下流域（河口や海）のつながりについて講話をしていただき、子ども達は川と海のつながりについて理解を深める。また、地元の観光資源に親しむ目的で鮎の串うちや塩焼き体験、漁船に乗船し長良川の環境調査を行う。